

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2072400845
法人名	特定非常営利活動法人まんでん
事業所名	グループホーム かぞく
所在地	長野県上伊那郡中川村大草4631-9 (電話) 0265-88-3077

評価機関名	NPO法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 5日
ユニット数	1 ユニット 9 人
職員数	11 人 常勤 10人, 非常勤1人, 常勤換算 10.125 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 930 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低 65 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 南向診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム かぞくは、天竜川東岸の河岸段丘の上に建ち、中央アルプスの峰々を望む素晴らしい自然環境の中にある。また、役場・診療所・小学校・保育園・郵便局・JAなどがある村の中心部にあたり、地域との交流に恵まれた環境でもある。このような地域に「思い出の家庭の再来を目指し」、「自分での独立を目覚めさせ」、「地域と支えあえる」という独自の理念を持ち、設立3年目であるが着実な歩みを続けてきている。ホームの玄関を入り廊下を行くと、中央に厨房・和室10帖・フリースペース・そして外の農園に続くサンルームが開けてくる。利用者が集まって、こたつに寝たり、唄を聞いたり、おしゃべりしたり、お茶の準備をしたりと、一人ひとりが思い思いの暮らしをしている。その中に、職員が利用者一人ひとりの様子を見ながら、間に入って声をかけたり、世話をしたりしている。このような様子から、このホームが目指している、明るく楽しい家族の暮らしを十分うかがうことができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で課題となった、緊急時の手当てを職員が全員できるように、年度計画に入れ実行していくという課題や、定期的健康診断を年一回は実施するという課題については、見直し、本年度の計画に取り入れ、実施している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組み、真摯に見直しをしてきている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回、包括支援センター、地区総代、民生児童委員、家族会代表が参加して運営推進委員会を開き、近況報告や課題について話し合っている。11月の会議では、外部評価の取り組みについて知らせ、その結果を報告して活用していくことを話し合った。また、村の社会福祉連絡会の一員として村の担当者を訪問して、利用者募集のお願いなどの情報提供をしたりして、ともに課題解決に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホーム内新聞を年4回(号外別)発行して利用者の暮らしぶりを知らせたり、毎月の利用料支払の折や面会のつど、個々に合わせた報告をしたりしている。また、苦情箱を玄関に設置して自由に投書できるようにしたり、年2回の家族会で意見を聞いたりしている。そして、苦情申出書に記録して職員に回覧し、改善に活かすようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、利用者と一緒に祭りやいきいきサロンに参加し、交流している。また、付近のバス停の掃除をしたり、「こどもを守る安心の家」を引き受けたりして、積極的に交流している。グループホームの近くの保育園・小学校や隣町の中学校からのボランティア活動を受け入れ、子どもたちと楽しく交流している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	NPO法人まんてんの一員として2番目に設立され、3年目を迎えて短い、「思い出の家庭の再来を目指し、笑顔が似合う思い出我が家となる・個を大切に、共同の中に自分での独立を目覚めさせる・グループホームが地域に馴染み、地域と支えあえる環境を創る」という3つの理念を掲げ、独自の歩みをしてきている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「昭和30年代の遺構や品物が残され、思い出の歌謡曲が流れる」普段の生活の中で、利用者一人ひとりを大切にして暮らしている。そして、カンファレンスや日々のミーティングにおいて、理念を基に話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、利用者と一緒に祭りやいきいきサロンに参加し、交流している。また、付近のバス停の掃除をしたり、「こどもを守る安心の家」を引き受けたりして、積極的に交流を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、また、外部評価を改善に活かし、見直しをしている。前回の外部評価で課題となった緊急時の手当や職員の定期健康診断などは改善計画に取り入れている。そして、今回の利用者調査での家族の要望には即時に対応している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、包括支援センター、地区総代、民生自動委員、家族会代表が参加して運営推進会議を開き、近況報告や課題について話し合っている。11月の会議では、外部評価について、その結果を報告して活用することを話合った。		

グループホーム かぞく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の社会福祉連絡会の一員として村の担当者を訪問して、利用者募集のお願いなどの情報提供をしたりして、ともに課題解決に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム内新聞を年4回(号外別)発行して利用者の暮らしぶりを知らせたり、毎月の利用料支払の折や面会の機会の度に、個々に合わせた報告をしたりしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置して自由に投書できるようにしたり、年2回の家族会で意見を聞いたりしている。そして、苦情申出書に記録して職員に回覧し、改善に活かすことができるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の時には、利用者が馴染めるように現職員による新規職員の指導を十分行い、引継ぎがきちんとしてできるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務調整をして交替で研修や講習などに参加できるようにしている。また、報告会を通して研修の成果を共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入して交流したり、他のグループホームの職員の研修を受け入れたりして、成果をあげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に面接を行って情報を得られるようにしたり、見学してもらって雰囲気に馴染めるようにしたりして、利用者が安心して、サービスが利用できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、お茶や食事の時に利用者の中に入り、話を一緒に楽しんでいる。そして、畑作りや水遣り・洗濯や買い物などを一緒にすることを通して、人間関係づくりをしている。また、利用者から干し柿やおはぎ作りを教えてもらったりして、ともに楽しんでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの生活習慣や生活時間を大切に、押し付けや無理を強いることのないように職員で話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族等の要望を基に、毎月のカンファレンスで話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。また、見直しが必要と思われるときは、利用者や家族と話し合って見直しをするようにしている。</p>		

グループホーム かぞく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や病院に出かけたいとか、外泊したいとの希望があれば、柔軟に対応し、支援できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりによって、かかりつけ医に往診してもらったり、受診できるように連れて行ったりしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人・家族の意志を尊重し、医師と職員とも交え相談して、重度化や終末期に向けたケア態勢はできているが、マニュアルはできていない。		重度化や終末期に向けた態勢のマニュアルを作り、明確化すると良いと思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重については、最も重視し、職員に徹底している。また、個人情報の取り扱いに配慮し、記録を管理保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食前の一時を一緒にしたとき、料理や配膳、お絞りを巻いたりして手伝っている利用者もいれば、居眠りしたり、歌を聴いたりしている利用者もいて、それぞれの暮らしぶりであった。日課はあるが、利用者個人のペースを大切に、個人にあった暮らしを支援している様子がよく分かった。		

グループホーム かぞく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、準備・盛り付け・片付けなど利用者個人に応じて一緒に行い、また、利用者の間に入って話しながら楽しく食事をしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望を聞いて、利用者がいつでも入ることができるようにしている。そして、入浴するときには、車椅子の利用者には2人、他は1人の介護を基準にして、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力に合わせて、食事・お茶の準備や洗濯物たたみ、畑作業など役割分担して喜んで働いていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望によって、散歩やドライブ、買い物など戸外に出かけられるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関やテラス、居室などに鍵をかけていない。以前門があったが、現在は門を外している。利用者一人ひとりの様子を見て、外に出て行きそうときは声をかけたり、連れ添って外出したりしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に訓練の指導を依頼し、実施している。また、近隣の家に避難の手助けをお願いしている。そして、レベル2(グループホームからの避難)が地域の協力のできるよう、働きかけている。		

グループホーム かぞく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士に見てもらい、豊かなメニューで栄養バランスがとれるものを作っている。そして、利用者に応じて、食事の量を変えたり、すり身にしたりしていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適で不自由でないように、浴室・トイレに床暖房を設置し、ひじをついても大丈夫で工夫された手すりをめぐらしてある。また、建物の中心部の共用スペースには、10畳の和室・フリースペース・サンルームを設け、明るく居心地よく過ごすことができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者本人家族の希望を取り入れ、使いやすく、馴染んだ物を使うことができるようになっていた。		